

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

福岡県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	中間市立中間東中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	26
生徒数	137	123	135	4	399	

研究の概要

1. 研究主題

生徒が意欲的に学び確かな学力が身につく学習指導法の研究
 - 各教科での個に応じた指導方法・指導体制の工夫と教材開発を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

フロンティアスクールとして、全学年の国語・数学・社会・英語を重点教科として取り組んだ。理由は、数学・英語については指導方法工夫加配教員が配当されており、全学年で少人数授業又はチームティーチングを実施しているから。また、国語・社会に関しては、授業時数の関係から、単元によって少人数授業が可能であるから。また、標準学力検査の結果により、この4つの教科の学力を向上させていく必要があるから。

(2) 年次ごとの計画

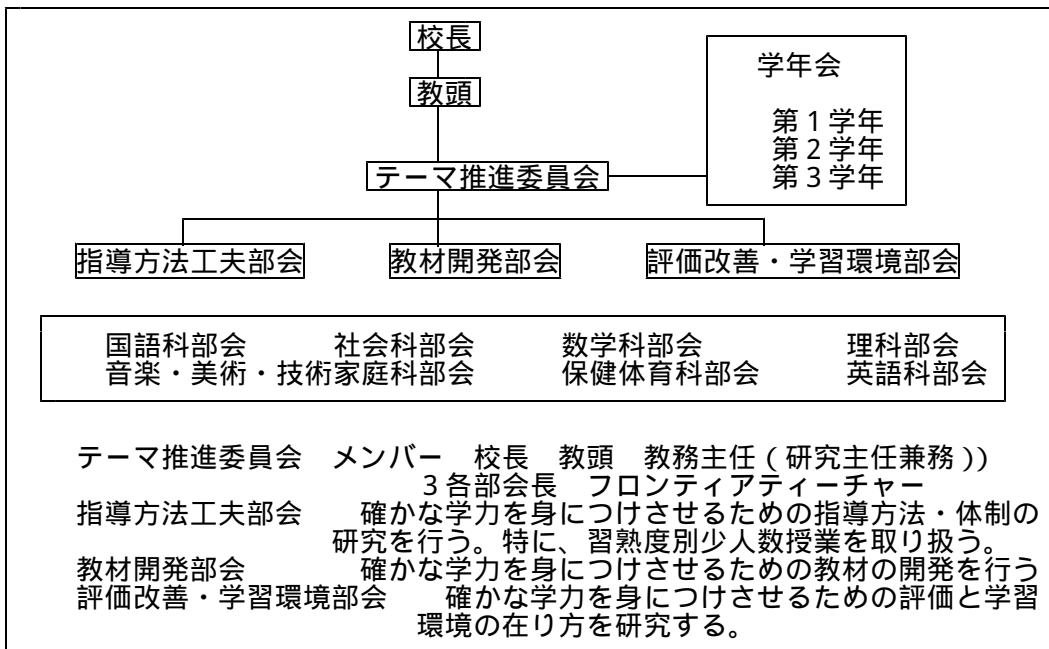
平成14年	
-------	--

平成15年度	<p>テーマ 生徒が意欲的に学び確かな学力が身につく学習指導法の研究 - 各教科での個に応じた指導方法・指導体制の工夫と教材開発を通して -</p> <p>研究の見通し 各教科の学習過程において、以下のように個に応じた工夫をすれば、生徒は学びに対して意欲的になり、確かな学力がつくであろう。 重点教科での習熟度別や課題別の少人数授業を行う。 発展的学習や補充的な学習など個に応じた教材の開発を行う。</p> <p>研究の内容 (1) 国語・数学・社会・英語を重点教科として、習熟度別や課題別の少人数授業の実践 (2) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発 (3) 生徒の学力の評価を生かした指導の改善と学習環境の整備</p> <p>研究の方法 (1) 重点教科での授業実践を通して生徒の確かな学力を向上させる。 (2) 実態調査の実施及び諸テスト(標準学力検査や定期考査)の結果を考察して、各教科の実践に活用する。 (3) 工夫改善3部会の各活動内容による提案を受けて、教科部会での指導方法・指導体制の工夫、教材の開発を行う。 (4) 各学年で、学校裁量や放課後時間を使って国語・数学・英語において個に応じたドリル学習や習熟度別学習を行う。</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 生徒が意欲的に学び確かな学力が身につく学習指導法の研究</p> <p>研究の見通し 各教科の学習過程において、以下のように個に応じた工夫をすれば、生徒は学びに対して意欲的になり、確かな学力がつくであろう。 重点教科での習熟度別や課題別少人数授業の実践を行う。 生徒の学力の評価を生かした授業の実践を行う。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 重点教科での授業実践を通して生徒の確かな学力を向上させる。 (2) 生徒の学力の評価(診断評価・形成評価・総括評価)を生かした指導を行う。</p>
----------------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

実践授業で様々な指導方法・指導体制の授業を行うことができた。特に、公開授業では、国語・社会・数学・英語科において習熟度別少人数授業を行うことができた。

標準学力検査では、入学時と比較して、1年生1ポイント、2年生2ポイント、3年生が4ポイント上昇。特に、どの学年でも数学の伸びが著しい。

学習の実態調査及び諸テスト(学力分析テスト・定期テスト)の結果の考察をすることにより日々の指導法改善に役立った。

学力向上のための校内掲示物のアイデアをだし、掲示物の充実を図ることができた。

各学年で学年裁量(東中タイム)の時間を使って様々な補充学習を仕組むことができた。(ドリル学習・学年教師全員参加による習熟度別少人数学習等)

各教科で学力向上のための方策を提示し実践することができた。

2. 今後の課題

公開授業などでは、個に応じたきめ細かな指導を行うことができたが、日常の授業においても、公開授業で得た学力向上の手法をもとに更なる工夫を行って生徒の学力向上をめざす必要がある。
学年・学級・(家庭)での確かな学力向上を目指した指導方法・指導体制の工夫を図る。特に、学年での取り組みに系統性を持たせる。
個に応じた指導のための全校生徒の個人カルテの充実を図る必要がある。
「家庭学習の手引き」の改訂を行い、家庭との連携の強化を図る。

学力把握のための学校としての取組

- 1 4月(1年生は3月)領域別学力分析検査
目的 学年の最初に5教科(1年生は4教科)の領域別の到達度についての分析を行い、その後の指導に役立てる。
内容 国語 社会 数学 理科 英語(2・3年生)前年度の全内容
- 2 9月 全学年 夏休み課題テスト(標準検査)
目的 1学期の内容を中心に生徒の到達度を分析し、その後の指導に役立てる。
内容 国語 社会 数学 理科 英語
- 3 11月(1・2年)学力診断シート
目的 学年の中間点での学習内容の到達度を分析し、その後の指導に役立てる。
- 4 1月(3年)冬休み課題テスト(標準検査)
目的 2学期までの学習内容の到達度について分析し、その後の指導に役立てる。
内容 国語 社会 数学 理科 英語

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 会の名称 公開授業(中間市教育振興会 数学・英語部会)
日時 7月3日 1年生 英語
12月3日 2年生 数学
目的 本年度の重点教科である数学・英語の習熟度別少人数授業を広く公開して、授業後、協議会を開催し本校の研究に対しての示唆をいただくため。
- 2 会の名称 実践交流会(中間市教育振興会 国語・社会・数学・英語部会)
日時 10月10日 国語 社会 数学 理科 英語
目的 本年度の重点教科である5教科の習熟度別少人数授業を広く公開して、授業後、教科ごとに協議会を開催し、本校の研究の普及に努めるため。
- 3 本校のHPを作成 アドレス <http://www13.ocn.ne.jp/~nhigashi/>
内容 中間東中学校の概要(教育目標・沿革・部活動)及びフロンティアスクールとしての研究内容・各教科の指導案等

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無